



第21回 自動認識総合展 大阪を開催

2024年2月21日・22日の両日、第21回自動認識総合展大阪がマイドームおおさかで開催されました。本展示会は、最新の自動認識技術と現場の課題解決に向けたソリューションが展示される関西で唯一の専門展で、会期中は活発な商談が展開され、併設セミナーでも多くの方々が聴講されました。



会報JAISA春号 CONTENTS

第21回 自動認識総合展 大阪 展示会概要 P1

第21回 自動認識総合展 大阪 おもな出展社と展示製品 P2

自動認識セミナー 大阪 特別講演 1 P3~5

自動認識セミナー 大阪 特別講演 2 P6~7

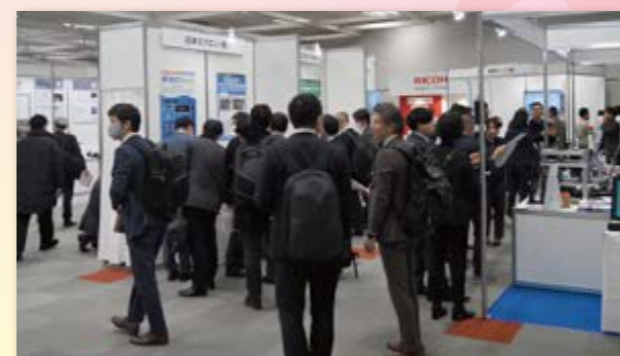
第21回 自動認識総合展 大阪 来場者アンケート P8

第26回 自動認識システム大賞のご案内 P9~10

2024年度 自動認識の基礎知識セミナーのご案内 P11~12

2024年度 自動認識技術者資格認定講習・試験のご案内 P13

第26回 自動認識総合展のご案内 P14



展示会場



セミナー会場

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第21回自動認識総合展 大阪

自動認識でSDGsとDXに貢献

2024年2月21日から22日まで、大阪市マイドームおおさかで「第21回 自動認識総合展 大阪」が開催されました。

会期初日の2月21日(火)、当協会相良会長は開会式のご挨拶で本展示会は、最新の自動認識技術によるソリューションや製品をご覧いただき、来場者と出展者がコミュニケーションを深め、イノベーションを創り出す場として、皆様のビジネスのお役に立つものと確信しておりますと述べ、続くご来賓の祝辞の後、テープカットを行い、本展示会が幕を明けました。

来賓の皆様はその後展示会場を視察し、RFIDや画像認識、AIなど出展各社のソリューションに触れ、DXの推進を支援する最新の自動認識技術に感心されていました。



開会式で祝辞を述べる
経済産業省 近畿経済産業局
産業部 製造産業課長
辻 敦士 氏



開会の挨拶を行う
JAISA代表理事会長
相良 隆義



開会式テープカット 写真右から、
大阪商工会議所経営情報センター 所長
大阪府商工労働部ものづくり支援課 課長補佐
経済産業省近畿経済産業局産業部 製造産業課長
大阪市経済戦略局産業振興部 産業振興課長
日本自動認識システム協会 代表理事会長

湯谷 康文 様
岡 正人 様
辻 敦士 様
松本 孝史 様
相良 隆義



出展社ブースを視察する来賓の方々

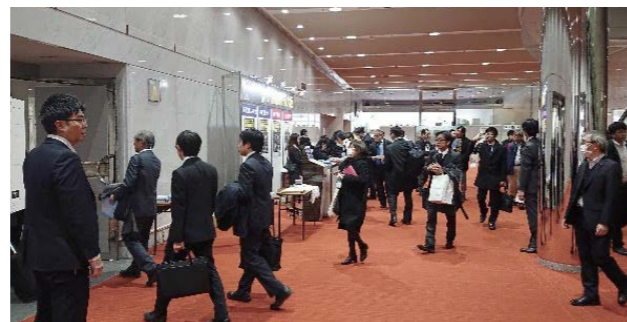
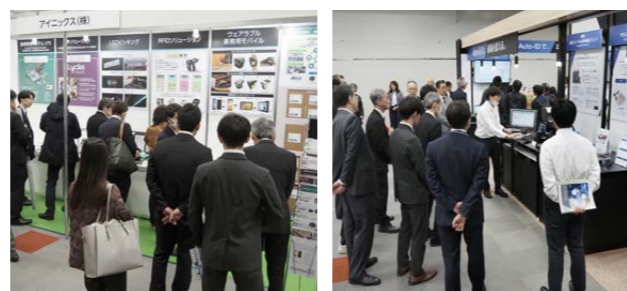


セミナー会場の特別講演

展示会規模

「第21回 自動認識総合展 大阪」の出展社は36社・団体(昨年=28社・団体)、来場者は2日間で1,892名(昨年=1,749名)、出展社・来場者ともに前年を上回ることとなりました。

また、同時開催のセミナーでは、近畿経済産業局による基調講演をはじめ、特別講演として、経済産業省のサプライチェーンのスマート化に向けた取組と(公財)流通経済研究所のフィジカルインターネットに関連した講演ほか、製造、物流、ヘルスクエアなど、さまざまな分野の導入事例紹介、自動認識市場調査報告と技術動向など、8セッションで292名の方々に聴講いただきました。



(株) RFID アライアンス / エイリアンテック/ロジ / データマース/ RFcamp	『創業16年のRFIDタグ専門卸売り商社』 米国エイリアンテック/ロジ社 UHF帯 RFID ラベル、韓国 RFIDcamp 金属タグ、スイス Datamars ランドリータグ、弊社プラスチック下げ札、RFID カードを国内に大量在庫。 注文に即対応します。 http://www.rfid-alliance.com
アイニックス (株)	『DXを実現する自動認識技術をご提案いたします』 次世代の電子棚札・電子ラベルや LED/ 音声によるピッキングシステム、また RFID を活用した棚卸システムや倉庫管理システム等、お客様の課題解決につながる製品&システムを展示します。 https://www.ainix.co.jp
伊藤忠メタルズ (株) / 4E antenna AB / All4Labels Group	『次世代 RFID アンテナ「脱プラ対応：紙基材アンテナ」』 RFID タグの基材であるアンテナ製品 従来の PET+ 金属箔の貼り合せから、PET を紙 100% へ変更した次世代 RFID アンテナ https://www.itochu-metals.co.jp
NEC プラットフォームズ (株)	『動画放映・カタログ展示』 https://www.necplatforms.co.jp
エム・アールエフ (株)	『PHYCHIPS 社製 UHF RFID モジュール』 小型、センサアプリケーション対応の多機能 UHF RFID モジュールをご紹介します。その他アンテナ各種もご用意しております。 https://www.mrf.co.jp
大阪市 経済戦略局	『後援団体』 https://www.city.osaka.lg.jp/keizaisenryaku/
(株) オープンストリーム	『モバイル端末向けアプリケーション開発環境』 業務システムの長期安定稼働を支え、コスト最適化と業務の効率化を実現するビジネス UI プラットフォーム「Biz/Browser」をご紹介します。 https://www.opst.co.jp
オカバマーケティングシステム (株)	『AUTO-ID、DXソリューションをご提案します』 RFID を活用した棚卸アプリ等の DXソリューションをご紹介します。また、ゼブラ社製 RFID プリンター、RFID リーダー、スマートデバイスの最新機種をご紹介します。 https://www.okabe-ms.co.jp
CRYSTONE TECH CO.,LTD	『RFID 関連製品を高品質・低価格で提供致します!』 弊社は自社開発 RFID チップと偽物防止 NFC、IC カード、ラベル、ハンディターミナル、工業用リーダライタを高品質・低価格で提供致します。RFID のことなら、何でも声をお掛けください。 http://www.crystonetech.com
コードコンシェル (株)	『RFID クラウド在庫管理・多言語越境 EC システム』 サブスク形式の在庫管理システム。全業種に対応しており、複数 EC モールを多言語一元管理できるプランと ShopifyPOS も連携。 クラウドでリアルタイムに管理が可能。 https://www.codeconcier.co.jp
(株) サイレンスネット	『UHF帯 RFID 関連製品の展示説明を行います。』 特殊用途 RFID タグ (耐熱、耐溶剤、金属対応ロングレンジ)、豊富なアンテナラインアップ、リーダライタ完成品からモジュールまで幅広くご紹介いたします。 https://www.silencenet.com
(株) サトー	『Auto-ID で、現場を変える。』 スマートファクトリー化に向けて製造業で関心が高い、RFID、RTLS、画像検査など自動認識技術を活用し、現場の業務を効率化するソリューションをご紹介します。 https://www.sato.co.jp
(株) セイコードー	『RFID ラベル・タグ業界に挑戦!』 RFID ラベル・タグ製造販売のセイコードーです。お客様のご要望に合った製品をお客様にご提供します。 https://seikodonet.com
積水樹脂 (株)	『RFID 透明電波吸収パネルのご提案』 多重反射波などによる誤読防止機能に加え、工場物流現場での視界確保・カメラ認識機能を兼ね備えた透明電波吸収パネル。このパネル活用の検知BOXやゲートを展示。 https://www.sekisuijushi.co.jp/products/list.html?logstic
ゼネラル (株)	『UHF 帯ネジ型 RF タグ』 RFID 機能を搭載した小型ネジでラベルタイプにない多様な耐性、取り付けが簡単、小型でありながら比較的高感度な RF タグです。 https://www.general.co.jp
(株) デンソーウェーブ	『IoT、DXソリューションで製造業の課題解決を実現!』 FA 機器をつなぐ IoT で、工場の設備稼働のムダと現場作業の効率化を実現! 電力消費量を監視することでコスト削減ソリューションや、ヒト・モノの動線管理ソリューションをご紹介します。 https://www.denso-wave.com
東芝テック (株)	『Auto-ID から始まる現場改革』 東芝テックは、自動認識技術を用いて製造物流現場の生産性向上とデータの見える化を実現するソリューションを提供し、サプライチェーンに関わる全ての方を笑顔にします。 https://www.toshibatec.co.jp
TOPPAN (株)	『製造・物流・医療の業務改革を実現する TOPPAN』 用途別 IC タグ・電子ペーパー・工具管理・遠隔監視・ピッキング等、製造・物流・医療業界など幅広い業界で省人化・無人化を実現するソリューションをご紹介します。 https://www.toppam.com/ja/
ニッタ (株)	『RFID タグ LogiFlex™』 RFID タグ LogiFlex™・新製品：リネン向けタグ LT シリーズ・新製品：長距離通信用金属対応タグ「MT-SR」・金属対応タグ「MT シリーズ」 https://www.nitta.co.jp
ミクロン (株)	『ポスター・カタログ展示』 https://www.nihon-micron.co.jp
(株) 日立ハイテクネクサス	『「見える化」による課題解決ソリューション』 当社独自のソリューションを紹介①RFID タグ活用による温度遠隔監視ソリューション②温度を「MIWAKERU®」温度検知 QR コードラベルによる温度管理サービス ③製造現場 RFID 可視化 https://www.hitachi-hightech.com/jp/ja/company/group/hnx
(株) マーストーケン ソリューション	『ポスター・カタログ展示』 https://www.mars-tohken.co.jp
萬世電機 (株)	『AI 技術を活用した FA 現場の生産性・品質の向上』 現場作業者の経験値や動に頼った生産現場の情報をデジタル化することで、異常の兆候や設備パラメータの最適値、部品の寿命、製品の外観検査を自動診断できます。 http://www.mansei.co.jp
緑屋情報システム (株)	『ポスター・カタログ展示』 https://www.mis-corp.jp
(株) リコー	『ラベルで実現する社会課題解決』 リコーのフェノールフリー感熱紙、ライナーレスラベルをご紹介します。 https://industry.ricoh.com/thermal
(株) Rist	『Deep Counter / 入数検査や棚卸業務を支援する AI』 Deep Counter はルールベースでは難しかった不定形物や、様々な向きに置かれた物体のカウントを高精度で実現する AI ソフトウェア。入数検査や棚卸業務を支援します。 https://www.rist.co.jp

サプライチェーンのスマート化に向けた経済産業省の取組



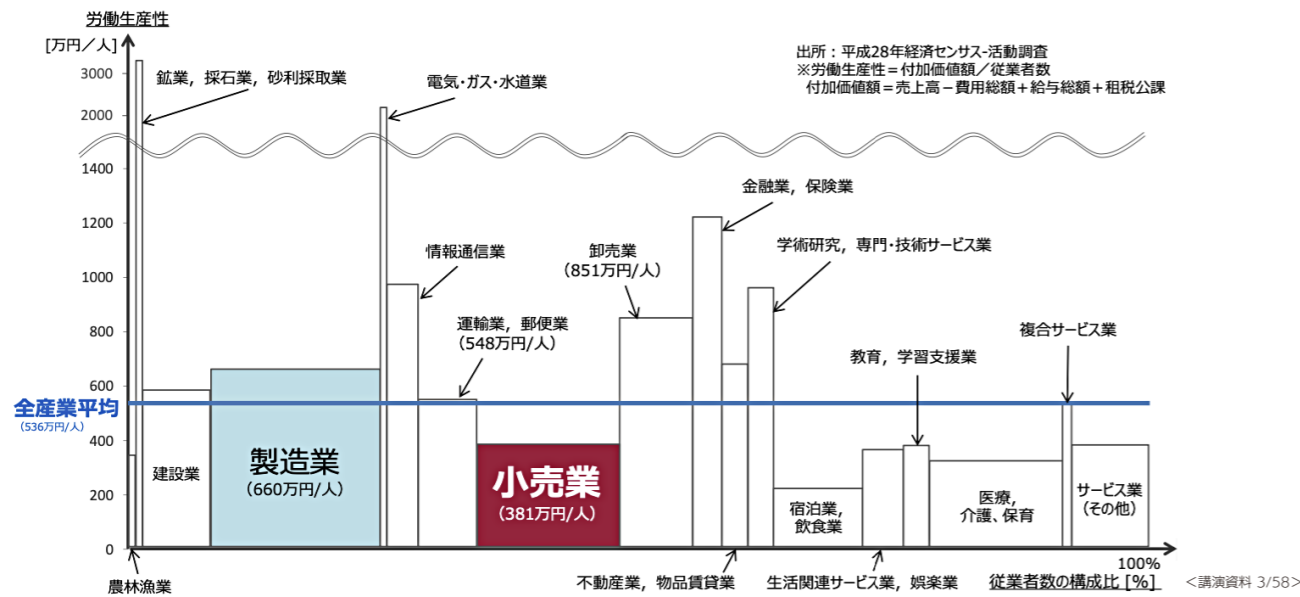
経済産業省
商務・サービスグループ
消費・流通政策課
課長補佐
金正和 氏

《講演概要》
令和4年度に実施したサプライチェーン効率化に向けた経済産業省委託事業の概要や、自動認識技術を活用した実証実験の事例をご説明いただきました。

《講師略歴》
入省以来、メーカー・卸・小売の連携によるサプライチェーンの効率化と新たな価値創造をミッションとして活動している。

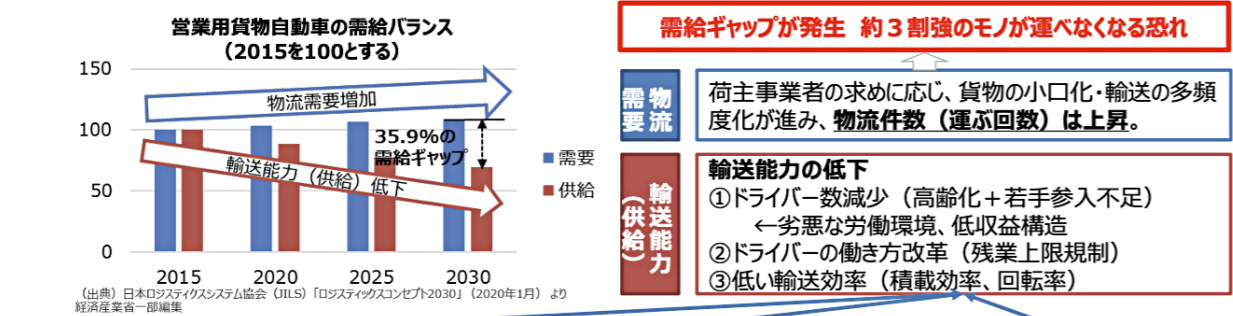
小売業界の現状② 労働生産性 平成28年経済センサス

- 小売業は我が国経済の重要な部分を占めているが、労働生産性は製造業と比べて4割以上低い。

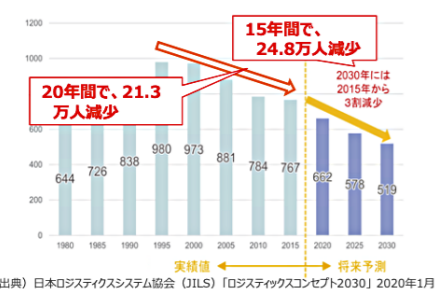


消費財サプライチェーンの非効率性の例 (物流)

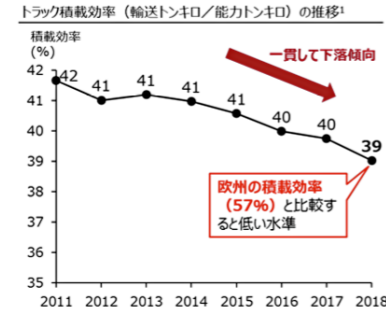
- 物流需要は増加する一方、輸送能力 (供給) は低下。
- 需給のバランスが崩れ、モノが運べない世界が到来する恐れ。



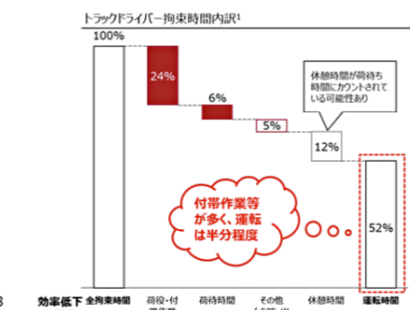
<道路貨物運送業の運転従事者数は減少傾向>



<低い積載効率>



<低い回転率 (= 時間当たりの実車率) >



「物流の2024年問題」(トラックドライバーの時間外労働の上限規制)

- トラックドライバーの長時間労働是正のため、**2024年度からトラックドライバーに時間外労働の上限規制 (年960時間) が適用。**
- 物流効率化に取り組みなかった場合、労働力不足による**物流需給がさらに逼迫**するおそれがあり、**コロナ前の2019年比で最大14.2% (4.0億トン) の輸送能力不足***が起これと試算されている。**(物流の2024年問題)**
- さらに、**2030年には、34.1% (9.4億トン) の輸送能力不足***が懸念される。

※株式会社NX総合研究所試算 (2022年11月11日)

トラックドライバーの働き方改革

法律・内容	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
時間外労働の上限規制 (年720時間の適用【一般則】)		大企業に適用	中小企業に適用				
時間外労働の上限規制 (年960時間の適用【自動車運転業務】)							適用
月60時間超の時間外割増賃金引き上げ (25%→50%) の中小企業への適用							適用

改善基準告示 (秒)	現行		2024年4月以降 (原則)	
	年間拘束時間	3,516時間	3,300時間	
1ヶ月の拘束時間	293時間	284時間		
1日の拘束時間	13時間	13時間		
休憩時間	継続8時間以上	継続11時間を基本とし、9時間下限		

「物流の2024年問題」の影響により 不足する輸送能力試算 (NX総合研究所)

○全体

不足する輸送能力の割合 (不足する営業用トラックの輸送トン数)	14.2% (4.0億トン)
---------------------------------	-----------------------

○発荷主別 (抜粋)

業界	不足する輸送能力割合
農産・水産品出荷団体	32.5%
紙・パルプ (製造業)	12.1%
建設業、建材 (製造業)	10.1%
自動車、電気・機械・精密、金属 (製造業)	9.2%

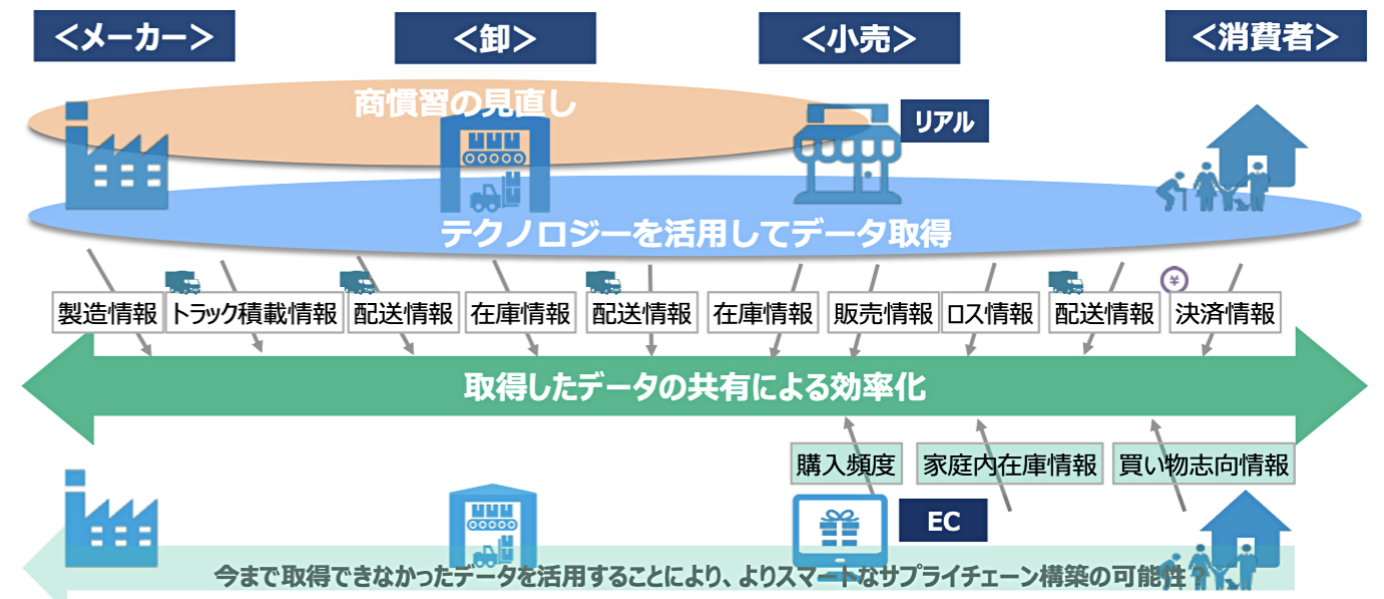
○地域別 (抜粋)

地域	不足する輸送能力の割合
中国	20.0%
九州	19.1%
関東	15.6%
中部	13.7%

<講演資料 6/58>

サプライチェーンの効率化の実現のために

- サプライチェーンにおける非効率性の解消は、我が国における流通業の積年の課題。
- 生産性向上のための解決策は、以下の視点から考える必要がある。
 - ①無駄を助長するような商慣習の見直し (製配販連携協議会 (納品期限、消費期限表示、廃棄ロス対策等))
 - ②テクノロジーを活用したデータ共有による効率化 (RFID、カメラ、購買データによる需要予測等)



電子タグ(RFID)活用による効率化・付加価値創出

- RFID (Radio Frequency Identification) とは、電波を用いた自動認識技術。
- 商品 1 単位ごとに電子タグを貼付することで**商品 1 つ 1 つを識別でき、複数の電子タグを一括読取できる**ため、業務を自動化・効率化することが可能。

<電子タグ>



<RFIDの利用イメージ>



同じ商品でも
個品で識別が可能

【活用事例】

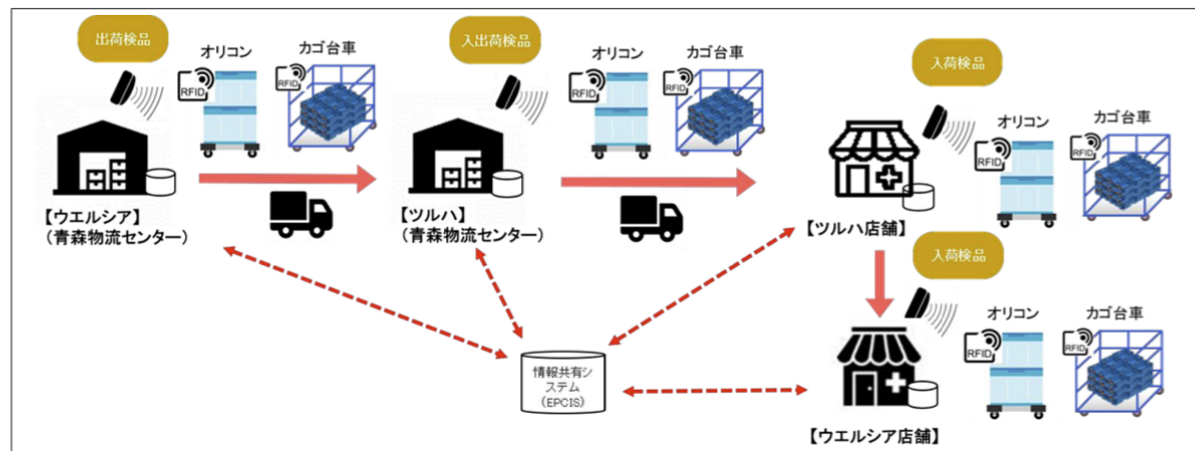
メーカー <ul style="list-style-type: none"> ○ 製品の正確なトレーサビリティの把握 ○ 偽造品対策 ○ 生活者ニーズの把握 	物流・卸売 <ul style="list-style-type: none"> ○ 配送経路・積載量の可視化による共同配送 ○ 災害時救援物資の迅速な配送 ○ 在庫管理効率化 ○ 検品効率化 	小売 (リアル店舗) <ul style="list-style-type: none"> ○ レジ業務の省力化 ○ 在庫管理効率化 ○ 検品効率化 ○ 盗難防止 ○ 食品ロス削減 	生活者 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭内在庫の把握 ○ 頻度の確認 ○ 食品の消費・賞味期限管理
---	---	--	--

<資料 22/58>

令和 4 年 RFID活用による付加価値創出等検討事業 (共同配送におけるRFID活用)

- 複数小売チェーンの共同配送において、**小売物流センターでの商品出荷、トラックによる商品配送、小売店舗での商品入荷時**におけるRFID活用による入出荷検品の正確化と効率化、加えてRFIDと情報共有システム (EPCIS) を用いて、店舗で積卸すべきカゴ車とケース/オリコンを特定することによる誤配送抑制の可能性を検証。

■ 実証実験イメージ (ウエルシア薬局・ツルハ)



- 物流センター内降時確認における効率化の効果を確認
- 配送店舗毎の積荷の正確な積載の観点から、誤配送防止等のRFIDの活用効果を確認

※本事業では他に店舗での防犯対策強化に関する実証も実施、防犯カメラ映像確認時間帯の短縮化への有効性等についても確認した

<資料 41/58>

フィジカルインターネット実現に向けたスマートボックス利用の取組について



(公財) 流通経済研究所
主任研究員
久保田 倫生 氏

《講演概要》
フィジカルインターネット実現に向けた、自動認識技術と規格化されたオリコン (スマートボックス) による物流効率化の取組について、実証実験の内容を中心にお話いただきました。

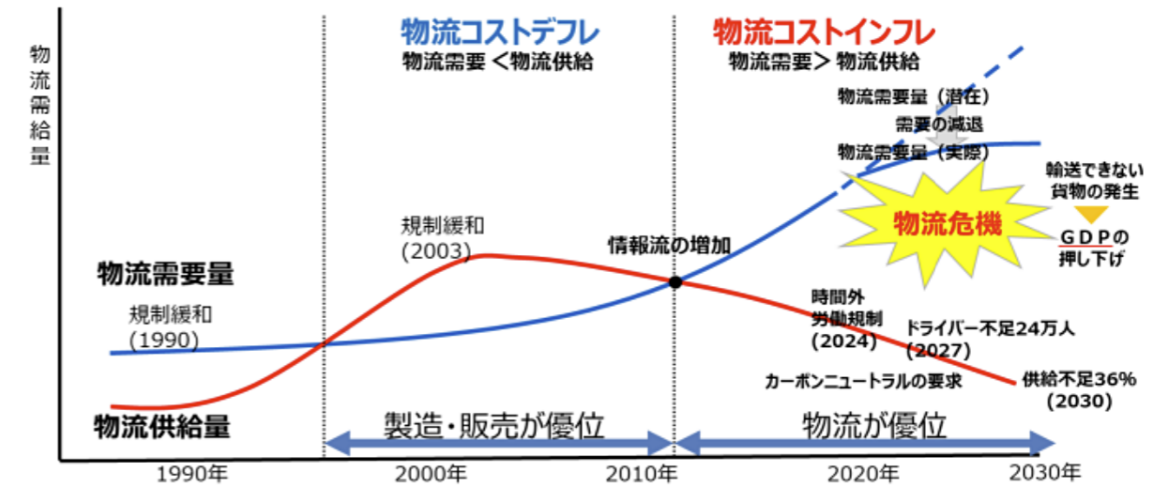
《講師略歴》
2021年まで経済産業省にて、消費財サプライチェーン全体の効率化、付加価値創出のために、製・配・販連携協議会を通じた商慣習の見直しや、RFID等のテクノロジーを活用した取組など、各種政策立案を行う。現在は流通経済研究所にて「フィジカルインターネット実現に向けたスーパーマーケット等アクションプラン」の実現に向けて、検討会の企画、運営等を行っている。

物流危機の本質

- 物流需要 > 物流供給が常態化。
- 物流コストインフレの構造を放置した場合、**2030年時点で、7.5~10.2兆円の経済損失※**が発生する可能性がある

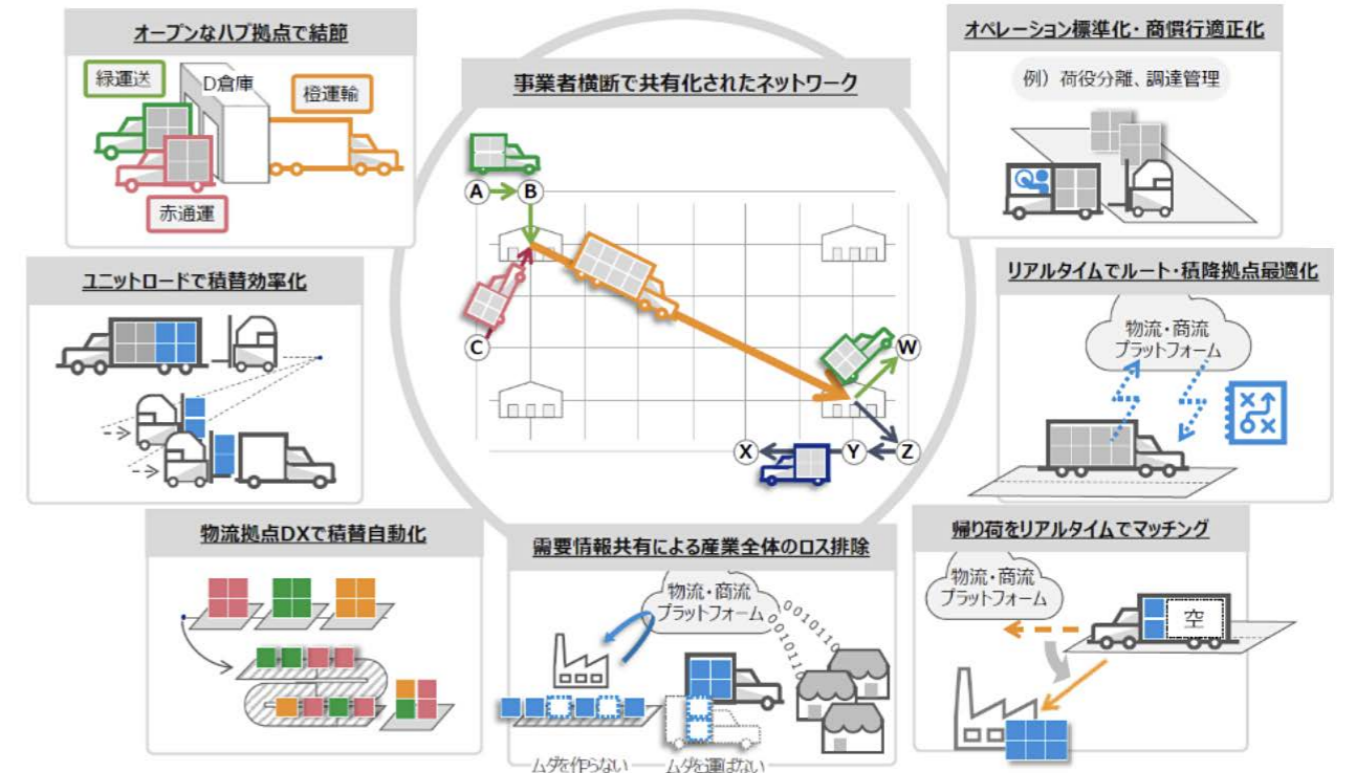
※国土交通省「自動車輸送統計」・内閣府「中長期の経済財政に関する試算」・総務省「労働力調査」等を元に推計

<物流の需給関係の模式図>



出所：経済産業省 フィジカルインターネットロードマップ (<https://www.meti.go.jp/press/2021/03/20220304005/20220304005-1.pdf>) <資料 4/84>

参考：フィジカルインターネット実現イメージ



出典：令和 3 年度商取引・サービス環境の適正化に係る事業 (スーパーマーケット等における流通・物流の諸問題に関する調査) 調査報告書より抜粋 <資料 7/84>

スマートボックスとは？

- スマートボックスとは、フィジカルインターネットの主な実現要素の一つとしてあげられた規格化されたコンテナのことで、「段ボールケースに代わるRFID 付きプラスチックコンテナ」を想定。
- このスマートボックスを活用することで、様々な梱包サイズによる荷物の積載や荷役の非効率性を改善するとともに、共同輸配送のマッチングの向上を目指す。

<参考：GS1ドイツの事例>



・スマートボックスはGRAI (Global Returnable Asset Identifier)で個品管理される。
 ・GRAIデータは、GS1-128、GS1データマトリクス、EPC/RFID※で保持する。GRAIデータのラベルは長側面2カ所に貼付される。
 また、スマートボックスは、商品管理用にラベルを用いることも想定している（側面表面は、ラベルがはがしやすいよう突起つきの仕様となっている）。

出所：GS1 Germany“Typbeschreibung GS1 SMART-Box”より作成
 <資料 15/84>

物流資材に組み込まれたRFIDを活用する際のオペレーション・データのルール化

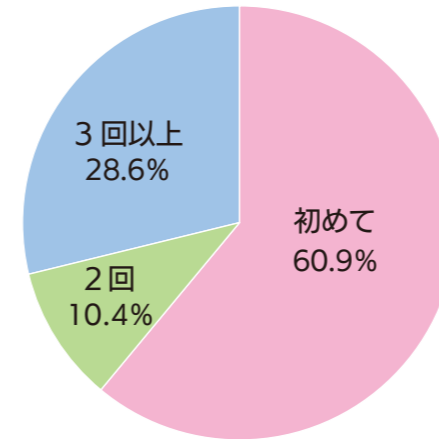
日用品における実証実験 実験の様子

■ メーカー工場・中央倉庫出荷～メーカー共同DCへの納品

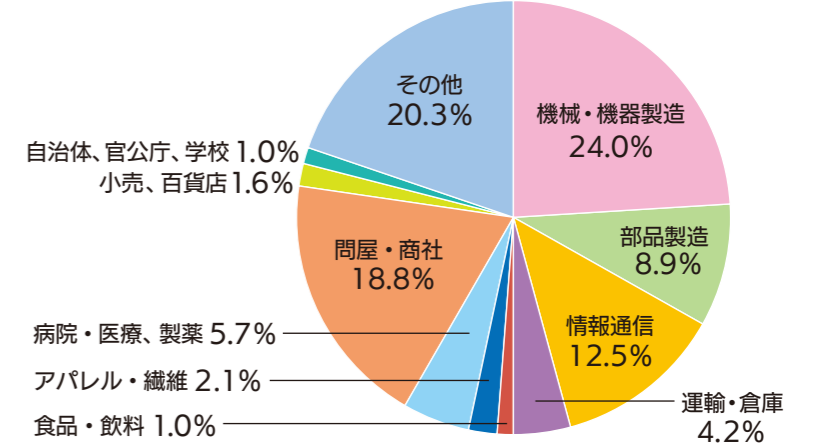
メーカー出荷 上段:サンスター 下段:ライオン	
丸全昭和 杉戸RC 入荷 左:サンスター 右:ライオン	

出典：経産省 令和4年度「流通・物流の効率化・付加価値創出に係る基盤構築事業（RFIDに関するオペレーション・データの標準化）」調査報告書より
 <資料 43/84>

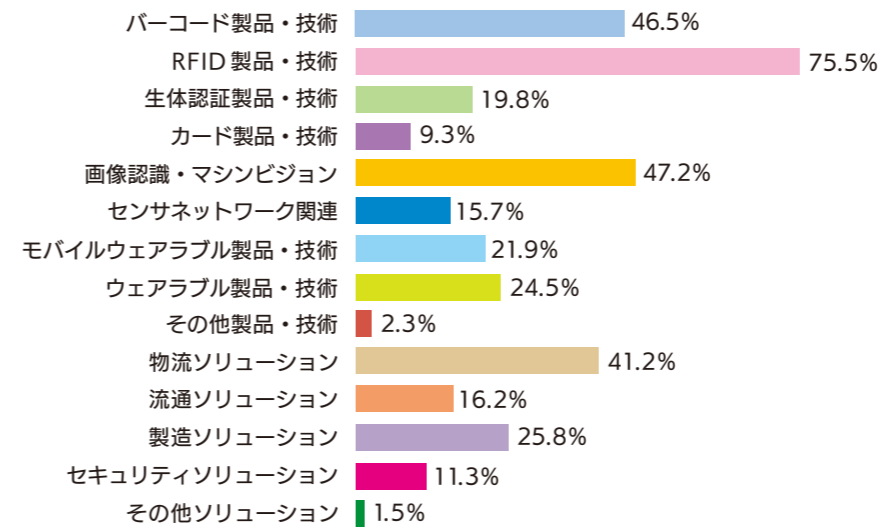
何回目のご来場ですか？



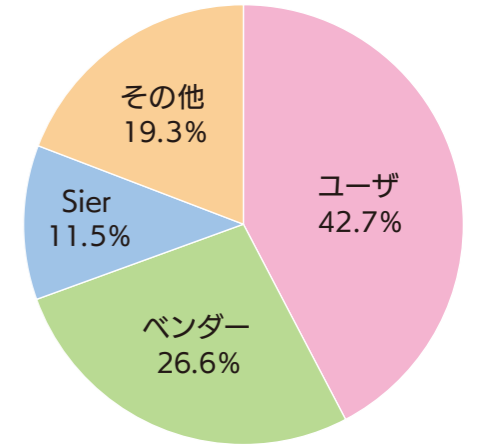
あなたの業種は？



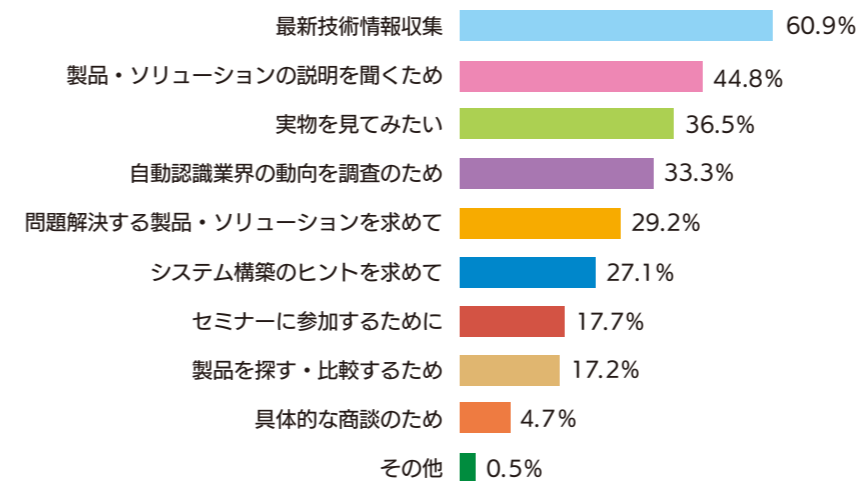
ご興味のある分野は？（複数回答）



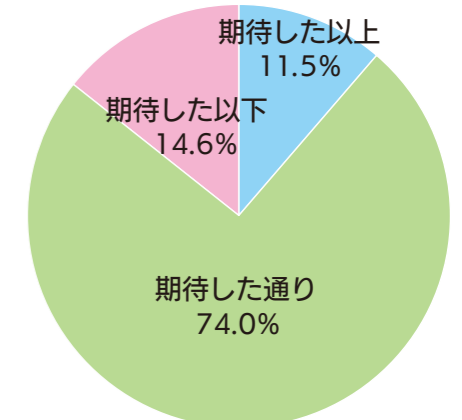
あなたは自動認識の



ご来場の目的は？（複数回答）



目的の達成について



第26回 自動認識システム大賞作品募集

2024年度の自動認識システム大賞の作品募集を開始しました。DXを推進、環境保全促進、省力・無人

の効率化システムなど、先進的かつ導入効果が顕著な事例をご応募ください。当協会会員企業、非会員企業、団体、個人でも応募できます。

第26回 自動認識システム大賞 作品募集

自動認識システム大賞は、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを表彰するもので、自動認識システム大賞、優秀賞ほか、各賞に賞状・副賞が授与されます。

大賞	1作品 (賞状、賞金30万円)	産経新聞社賞	1作品 (賞状、賞金)
優秀賞	2作品 (賞状、賞金10万円)	特別賞*	1作品 (賞状、賞金)

※特別賞は、新規性、導入効果、社会的価値、実績等の審査項目において、秀でたものがあれば対象となります。



自動認識システム大賞 応募要項

■募集対象

自動認識に関する技術やシステムで、国内で実用されている、または実用の目的が立っているもの。海外で構築されたシステムは国内の導入実績があるもの。日本国内の企業、団体、個人でご応募ください。

■応募方法

以下の項目について指定の申請書に記述して、当協会にe-mailにてお送りください。(ファイルサイズが大きい場合は、事前にご連絡ください)

1. **技術分野**：バーコード、RFID、画像認識、生体認証など
2. **申請テーマ**：簡潔で分かりやすい名称を30文字以内で記述
3. **申請会社名**：会社・団体、担当者、所在地、連絡先など
4. **共同申請会社**：共同申請会社・団体がある場合、応募1作品につき、最大3社・団体まで
5. **ユーザー名**：会社・団体、担当者、連絡先など
公表できない場合は業界を明らかにすること
6. **システム概要**：技術やシステムの概要を300文字以内で記述
7. **申請内容詳細**：新規性／技術、市場、企画などの見地で記述
導入効果／経済面、品質面、利便性を記述
社会的価値／公共性、環境、社会貢献度を記述
実績／導入実績、導入予定等を記述
8. **機器、システム構成**：写真や動画、図表を使って記述
9. **補足資料**：優位性を説明する資料があれば同封

■募集条件

受賞者は、当協会が設定するセミナーなどで、プレゼンテーションを行っていただけます。また、当協会が出版、寄稿する際に、受賞作品の掲載協力をお願いします。

■日程

- 募集開始 2024年3月1日 (金)
- 締め切り 2024年5月31日 (金)
- 審査**：予選審査及び最終審査を行います。
予選審査を通過した申請者は、最終審査でプレゼンテーションを行っていただけます。
(但し、交通費は自己負担をお願いします)
- 結果発表**：2024年7月31日 (水)
当協会Webサイトほかで公表します。
- 表彰式**：2024年9月11日 (水) *第26回自動認識総合展会場にて開催予定

■お問い合わせ
(一社) 日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651
✉ system-award2024@jaisa.or.jp
www.jaisa.or.jp



第26回 自動認識システム大賞

応募書類作成要領

以下の1~9までの項目について記述してください。なお、指定フォーマットはWebサイトに掲載しています。

1. **技術分野** 以下の項目で該当するすべてを記述してください。(複数回答可)
バーコード (一次元シンボル)、二次元シンボル、RFID (RFタグ)、ICカード、NFC、磁気カード、OCR、画像認識、バイオメトリクス (指紋・顔貌・静脈・音声・虹彩・掌形の認証)、その他
2. **申請テーマ** 内容を的確かつ具体的に表現し、簡潔で分かりやすい名称を30文字以内で記述
3. **申請会社名・団体名** 記入項目は、会社名・団体名、担当者名、所属名、役職名、電話番号、Fax番号、E-mail
4. **共同申請会社・団体** 共同申請会社・団体がある場合は記入欄に共同申請会社名・団体名を記入
※応募作品1点につき、最大3社・団体までとします。
5. **ユーザー名・団体名** 記入項目は、会社名・団体名、担当者名、所属名、役職名、電話番号、Fax番号、E-mail
※公開して良い場合のみ記入、非公開の場合は会社名の欄に業界名を記入してください。
6. **概要** 申請した技術やシステムについてその概要を150字程度で記述
※過去に、受賞履歴がある場合は、申請書の6.概要に受賞履歴を記し、前回の申請と異なる点を記述願います。
※国外で構築されたシステムは、国内での導入実績があるものを対象とします。
7. **申請内容の詳細** 申請した技術やシステムに関し、以下の項目について強調したい事項を中心に記述
A. 新規性：技術的新規性、市場的新規性、企画的新規性
B. 導入効果：経済的導入効果、品質的導入効果 (定量的に)、利便性
C. 社会的価値：公共性、環境性、その他 (特筆すべき社会貢献度)
D. 実績：導入実績 (定量的に)
※まだ実績がない場合は導入予定。
8. **機器、システム構成** 申請した技術やシステムについて写真、図等を使用し記述 (別紙可)
9. **補足資料** 申請した技術やシステムの優位性を説明する補足資料があれば提出

ご参考 過去の受賞作品はWebサイトをご覧ください。 https://www.jaisa.or.jp/award_history.php

第25回 自動認識システム大賞 受賞作品

	受賞作品タイトル	応募企業
大賞	顔・虹彩マルチモーダル生体認証ソリューション	日本電気株式会社
優秀賞	建設現場向け屋内位置情報システム「位置プラス®」	株式会社竹中工務店 株式会社朝日興産
優秀賞	RFID及びGPSを利用した車両ロケーション管理システムの実用化	TOPPANエッジ株式会社 日産自動車株式会社
産経新聞社賞	RFIDを活用した倉庫内作業の効率改善	レンゴー株式会社 住友商事マシネックス株式会社 東芝テック株式会社
特別賞	RFIDを搭載した複合機導入による入庫作業の効率化と伝票作業の負担削減	株式会社 Askal カバン工房 小林クリエイト株式会社 東芝テック株式会社



第25回 自動認識システム大賞 受賞のみなさま
昨年の受賞作品は https://www.jaisa.or.jp/award_history.php

2024年度 自動認識の基礎知識セミナー

自動認識の基礎知識セミナーは、どなたでも参加できる自動認識技術の入門講座として、一次元・二次元シンボルやRFID（電子タグ）、バイオメトリクス（生体認証）の基礎知識を図式や事例を交えて分かり易く解説します。

自動認識の基礎知識セミナー概要

講座	バーコード、RFID、バイオメトリクス、標準化
対象者	どなたでもご参加頂けます。特に新入社員・新任担当者の方に最適です。
URL	https://www.jaisa.or.jp/seminar.php (Webサイト)
申込	kiso-seminar@jaisa.or.jp (e-mail)

【1】自動認識の基礎知識セミナー（集合形式 または オンライン受講）

開催日	2024年 ①4月25日(木) ②6月21日(金) ③8月28日(水) ④10月23日(水) ⑤12月6日(金)		
開催時間	10:00～16:45(昼食、休憩含む)		
開催場所	(一社)日本自動認識システム協会 会議室		
講義内容	バーコード、RFID、バイオメトリクスおよび標準化の基礎的な知識、活用方法・応用事例ほか		
募集人員	40名(先着順)		
受講費用	会員企業 10,000円/人(税込価格 11,000円)	非会員企業 20,000円/人(税込価格 22,000円)	

【2】講師派遣による自動認識の基礎知識セミナー（集合形式 または オンライン受講）

開催日	ご要望により実施		
開催場所	ご指定場所		
講義内容	バーコード、RFID、バイオメトリクスの各科目を各1講座として、1回の派遣につき2講座以上にて対応します。講座の組合せはご要望に従って実施します。 ※RFIDの実演に関しては免許の関係により別途ご相談		
実施費用 (1講座) ※2講座以上で お申し込みください	受講人数	会員企業	非会員企業
	20名未満	30,000円(税込価格 33,000円)	60,000円(税込価格 66,000円)
	20名以上	40,000円(税込価格 44,000円)	80,000円(税込価格 88,000円)
50名以上	60,000円(税込価格 66,000円)	120,000円(税込価格 132,000円)	
交通費等	講師交通費・宿泊費・日当等は講師人数分を別途ご負担願います。(100km圏内は除く)		
その他	セミナー会場の確保とプロジェクターの準備をお願いします。		

お問い合わせ

(一社)日本自動認識システム協会基礎知識セミナー事務局
Phone 03-5825-6651 ✉ kiso-seminar@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp



1 バーコード、および標準化の基礎知識

<講義時間> 1時間45分(予定)

- ・標準化とは
- ・自動認識とは
- ・バーコードとは
- ・バーコードの歴史
- ・バーコードで何が出来る?
- ・バーコードのデータ
- ・ユニークIDとデータベース
- ・バーコードの種類と特徴
- ・バーコードの印字品質
- ・どのようにして読んでいるの

〈一次元シンボル体系の概要〉

- 今までに約200種類以上発表されている中で、ISO/IEC規格では5種類、JISでは6種類だけが規格化されている。
- 一次元シンボル体系では、可読文字が表示されている。



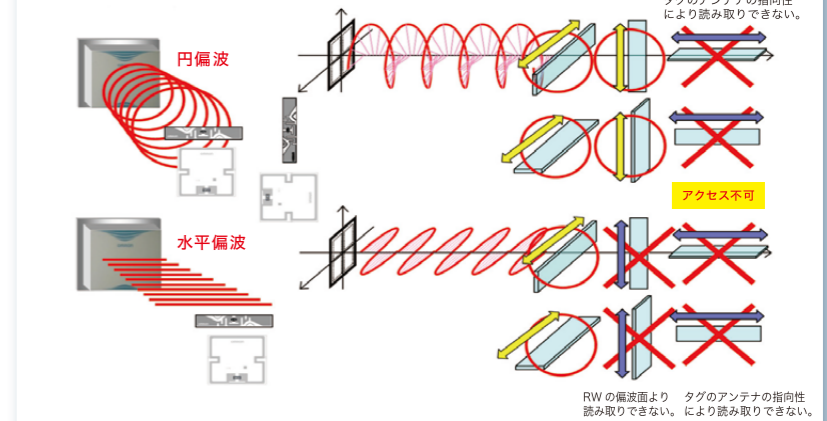
テキストサンプル

2 RFIDの基礎知識

<講義時間> 2時間20分(予定)

- ・RFIDとは
- ・RFIDで何が出来る?
- ・RFIDの種類と特徴
- ・電波法って何?
- ・RFIDの標準化とは
- ・UHF帯RFIDの特徴
- ・13.56MHz帯RFIDの特徴
- ・コンビニやアパレルの事例
- ・機器を動かしてみよう

リーダライタアンテナの偏波と、RFタグの指向性



テキストサンプル

3 バイオメトリクスの基礎知識

<講義時間> 1時間30分(予定)

- ・バイオメトリクスとは
- ・どうして使われだしたか?
- ・今、何に使われているか?
- ・生体認証の基本的な仕組み
- ・生体認証の種類と特徴
- ・導入する上での検討事項
- ・バイオメトリクスの標準化
- ・最近のトピックス

バイオメトリクス活用の広がり

- 簡単・便利でなりませんが難しい本人確認方法の制度向上
- 新しいプロセスを作るDXの鍵-生体認証-



身体的特徴や行動的特徴を抽出



バイオメトリクスを用いた生体認証装置と活用分野

テキストサンプル

2024年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験

多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、提供する人と利用する人が、正しく学び習得するための技術者認定試験です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習：オンライン形式（再視聴あり）	試験：集合形式（全国複数会場）
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習：集合 or オンライン形式	試験：集合形式（東京会場）

自動認識技術者資格認定講習・試験 概要

■目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対応ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格

自動認識技術の基本となる「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。

対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格

「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」の各科目の専門的な知識を習得します。

対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。

また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。

*希望により非公表も有。



登録証見本

■講習・試験日程

●第52回自動認識基本技術者資格認定講習・試験				
日程	講習(オンライン)	講習再視聴(オンデマンド配信)	試験(会場集合)	
7月4日(木) 10:30~16:30	7月5日(金) 10:30~16:30	7月6日(土)~12日(金) 24時間	7月13日(土) 13:30~14:50	
受講科目	標準化 RFID	バーコード バイオメトリクス	全4科目	東京・大阪・仙台 4科目受験
●第53回自動認識基本技術者資格認定講習・試験				
日程	講習(オンライン)	講習再視聴(オンデマンド配信)	試験(会場集合)	
11月7日(木) 10:30~16:30	11月8日(金) 10:30~16:30	11月9日(土)~15日(金) 24時間	11月16日(土) 13:30~14:50	
受講科目	標準化 RFID	バーコード バイオメトリクス	全4科目	東京・名古屋・福岡 4科目受験
*自動認識基本技術者資格認定講習・試験では、講習から試験までの復習期間を延長して講習を再視聴できる日程を設けています。				
●第19回RFID専門技術者資格認定講習・試験				
日程	講習:RFID (JAISA会議室・オンライン)	試験(会場集合)		
2025年2月6日(木)~8日(土) 9:00~16:00		2025年2月15日(土) 13:00~14:30	東京	

■受講・受験料

●自動認識基本技術者資格認定講習・試験				
受験回数	一般	会員割引	学生割引(料金)	受験料(試験のみ)
1回目受験(テキスト有)	40,000円 (税込価格 44,000円)	30,000円 (税込価格 33,000円)		
1回目受験(テキスト無)	32,000円 (税込価格 35,200円)	24,000円 (税込価格 26,400円)	15,000円 (税込価格 16,500円) 毎回	10,000円 (税込価格 11,000円) 毎回
2回目受験(テキスト有)	15,000円 (税込価格 16,500円)	15,000円 (税込価格 16,500円)		
●RFID専門技術者資格認定講習・試験				
受験回数	一般	会員割引	受験料(試験のみ)	
毎回	50,000円(税込価格 55,000円)	40,000円(税込価格 44,000円)	20,000円(税込価格 22,000円)	

■お問い合わせ

(一社) 日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651 | license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp



出展社募集

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第26回 自動認識総合展

2024.9.11^{WED}-13^{FRI} **ゾーン展示** 画像認識×AIゾーン
10:00-17:00 東京ビッグサイト 西ホール



主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：**BTSpice** 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら



展示会事務局 (株)シー・エヌ・ティ
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 info@autoid-expo.com



会報 JAISA 第78号 発行所：一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人：専務理事 古村浩志
事務局：〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL:03-5825-6651 FAX:03-5825-6653 <https://www.jaisa.or.jp/>